

## 山本五十六馴染みの海軍料亭“小松”

数年前、小生の属している特許情報関係の研究会で、横須賀を訪れたことがある。会員に海上自衛隊出身の女性がいた関係で、横須賀の海軍関係の施設や軍港を見学した。そのコースの中に料亭「小松」での会食が組み込まれていた。「小松」は相武60が忘年会などの会合によく使用した店でもある。

ここに「小松」の歴史を簡単に紹介したい。

「小松」の初代女将は山本悦さん。悦さんは浦賀にあった料亭「吉川屋」の仲居として働いていたが、偶々浦賀沖で行われた水雷の実験を視察に来られた小松宮彰仁親王が吉川屋に立ち寄った際、悦さんを大変気に入られ、小松の名前を授けた。悦さんは山本コマツと改名し、明治18年独立して料亭「小松」を開業した。2代目の女将山本直枝さんも「小松」で仲居をしていたが、初代女将に認められ、33歳で2代目の女将を継いだ。爾来、約60年、平成16年、95歳で亡くなられるまで現役女将として活躍し、山本五十六や米内光政などの海軍の将星に臍原にされ、逸話も多く残されている。

さて、我々研究会の一行は、猿島を散策した後、昼食のため「小松」を訪れた。古びた木造の玄関を入ると、先ず応接間に通された。洒落た洋間に多数の海軍関係の写真や記念品が飾られていた。

次に大広間に通された。当時の初代女将の米寿になぞらえた88畳敷きの大部屋である。正面の舞台には大きな松が舞台一杯に広がった見事な屏風が飾られている。反対の床の間には紫檀の床柱が2本、これ1本で家が建つといわれるほどの見事な銘木が用いられている。



「小松」の玄関



「小松」の 88 畳大広間



大広間の紫檀の床柱

それから、昼食の前に「長官部屋」と呼ばれている部屋に案内された。さほど広くはないが、東郷元帥始め歴代の将軍、提督等が愛用した部屋で、名だたる海軍の首脳部が時には酒を酌み交わして歓談し、時には密議を凝らした部屋でもある。何も飾り気のない細長い部屋の側面に大きな掛け軸が5幅掛けられていた。



長官部屋の掛け軸

右から、東郷平八郎元帥、上村彦之丞大将、鈴木貫太郎大将



左から山本五十六元帥、米内光政大将、鈴木貫太郎大将の筆になる掛け軸である。また欄間には岡田啓介首相の「天高水廻」の横書きの額が掲げられている。



岡田啓介首相の書

各自各様でその人柄がもし出されていて面白い。

東郷元帥の書は我々のイメージと異なり、おとなしく優雅である。話によれば元帥は、一人でちびりちびりと一晩中この部屋で飲み明かして女中泣かせであったそう。

最近外人客が多いと、宿の主人から外人向けの説明書を分けて頂いた。

◆東郷元帥「如日月光明」（日月光明の如し：あなたの積み重ねてこられた年月のように輝いています）**Time you have been spending with history has been shining like a bright light.**

◆上村大将「美哉壽」（美なるかな壽）（小松の女将の長寿を讃える）

**I express my sincere congratulations on your respectable long life.**

◆鈴木大将「祝喜寿」（小松の女将の七十七歳の誕生日をお祝いする）

**Happy seventy-seventh birthday.**  
(This writing brush type word, "Yorokobu" means congratulations and it also looks the Chinese character for 77 so with it we celebrate being 77 years old.)

◆米内大将「春風江上路不覚到君家」（春風江上の路 覚えす到る君が家：春風の季節、横須賀に入港すると思わず小松に来てしまいました。）**Along with a spring breeze, whenever my ship had entered in Yokosuka, I had unconsciously visited the "KOMATSU".**

◆山本元帥「百萬猛兵猶可破一隻織手竟難防」（百万の猛兵をも破るは可なれども、一隻の織手ついに防ぎ難し：百万の強い兵隊をも打ち負かすことが出来る私だが、細くしなやかな女性の手にはかなわなかった。）

**I was a strong soldier who could hit one million enemies but I couldn't win against a female.**

話によれば米内大将は酒豪で山本元帥とはよく小松に通った仲。山本元帥はお酒は余り強い方ではなかったが、座が面白くよくもてたと云われている。この書は実感が籠もっている。あらぬ妄想を抱きながら軍神山本元帥の実像を想像した次第である。

その後、美しい庭に面した広間で美女のお酌で一献傾けながら結構な昼食を頂いた。このように歴史の一齣を垣間見ながら思いがけない目の保養をし、満ち足りた気持ちで「小松」を後にして、我々一行は軍港巡りのため横須賀港に向かった。



2007,11,12 記

川島 順（社団法人情報科学技術協会、パテントドクメンテーション部会委員）



旧海軍の記念品が飾られている応接間